

ANUJANU



[第5回特別展示]

イコロ ウエカリレ

アイヌ資料をコレクションする

探究展示 テンパテンパ⑦

博物館Pickup!

見て見て! 館内サイン⑨

調査研究最前線③

展示事業報告

ウポポイってこんなところ⑥

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ



重要文化財 しろながふくりん た ち
白長覆輪太刀
収集者 杉山寿栄男
収集地 北海道 平取
所蔵 東北歴史博物館



重要文化財 えぞしまきかん
蝦夷島奇観
はたあわまるろ しまのじょう
作者 秦愷磨(村上島之允)
収蔵 九州国立博物館
Image:TNM Image Archives



重要文化財 印籠
かんぢゃん
収集者 菅茶山
所蔵 広島県立歴史博物館

文化史的意義の特に深いもの、学術的価値が極めて高いものとして、国の重要文化財に指定されているアイヌ資料があります。一堂に紹介するのは本展覧会が初めてです。

7件一挙に公開!!

国指定文化財



けいこう かわよらい
挂甲(革鎧)
収集者 伊東信雄
収集地 樺太 東多来加
所蔵 東北大学大学院 文学研究科

まだまだ知られていないアイヌ資料が全国の博物館などに収蔵されています。コレクションした人物・組織や時代背景などのエピソードと合わせて、この機会にご覧ください。

北海道で初めて

公開する資料多数!!



木綿衣
収集者 毛利総七郎
所蔵 石巻市博物館



へら
まつらせいざん まつら
収集者 松浦静山 所蔵 松浦史料博物館

イコロ ウエカリレ

アイヌ資料をコレクションする

第5回特別展示

会期 **2022 9.17(土) - 11.20(日)**
※休館日：月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)
9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館、9月20日(火)、10月11日(火)は休館
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては会期を変更する場合があります。

会場 **国立アイヌ民族博物館 特別展示室**
※ウボボイ入場料とは別に特別観覧料(300円)が必要です。

【主催】国立アイヌ民族博物館 【後援】北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会
【協力】九州国立博物館、国立民族学博物館、東京国立博物館、東北大学大学院文学研究科、東北大学附属図書館、北海道大学植物園・博物館、北海道大学附属図書館、天理大学附属天理参考館、北海道立文書館、東北歴史博物館、広島県立歴史博物館、石巻市教育委員会、市立函館博物館、根室市歴史と自然の資料館、松浦武四郎記念館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、別海町加賀家文書館、専別町教育委員会、豊野茂二風谷アイヌ資料館、川村カチアアイヌ記念館、松浦史料博物館

※展覧会名の「イコロ ウエカリレ」の「イコロ」はアイヌ語で「宝物」、ここでは「資料」、ウエカリレは「～を集める」を意味しており、「(彼/彼女(ら)が)資料を集める/集めた」という意味になります。*旭川方言

アイヌ資料とは

アイヌ民族が過去から現在まで歩んできた歴史や脈々と受け継がれてきたアイヌ文化を語るうえで欠くことのできないもの、それがアイヌ資料です。かつての生活の中で使われていた民具、アイヌ民族に関する出来事や風習などについて書かれたものや自ら書いたもの、アイヌ民族を写した絵図・写真・映像、口承文芸や語りなどを録音した音声、アイヌ民族やその祖先が遺した考古遺物などが挙げられます。また、受け継がれる技術

と知識を駆使し、新たな表現を積極的に取り入れて、生み出されているものも含まれます。

本展覧会では、アイヌ資料の中でも特に民具に焦点を当て、各時代の人物や組織がどのような目的をもってコレクションしていったかを紹介します。展示品を通じて、アイヌの民具にみられる「伝統」とは何かについて考えていきます。

関連事業

- 9/17(土) 《オープニング講演会》講師：佐々木利和(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 招へい教員)
- 10/1(土) 《講演会》講師：山崎幸治(北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授)
- 11/5(土) 《シンポジウム》豊野志朗(豊野茂二風谷アイヌ資料館 館長)ほか
- 当館職員によるギャラリートーク
9/23(土)、10/8(土)、10/23(土)、11/3(土)、11/19(土)
※詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。

一堂に集結!!

貴重な資料が

国内外において現存する数が極めて少ない資料、そして武四郎が収集したマキリなど貴重な資料が勢揃いします。



針入れ袋
収集者 鳥居龍蔵
収集地 色丹島
所蔵 国立民族学博物館

ワナ

かんご
収集者 林欽吾
収集地 色丹島
所蔵 根室市歴史と自然の資料館



重要文化財 マキリ
収集者 松浦武四郎 収集地 北海道
所蔵 松浦武四郎記念館

博物館が今ここに

必見!! 北海道最初の



函館仮博物館
所蔵 市立函館博物館

開拓使が開場した札幌仮博物館(1877(明治10)年)と函館仮博物館(1879(明治12)年)は、どちらも日本における地域博物館の先駆けでした。さまざまな資料と合わせて、当時の様子を紹介します。



アペフチカムイ ~火の神様~
作者 貝澤徹
所蔵 国立アイヌ民族博物館

受け継がれてきた技術や知識を活かして新たな作品が創り続けられています。現代の作品から今に続く文化にふれてください。

今に伝える作品

美と技を



チキサニカムイ
作者 床ヌブリ
所蔵 アイヌ民族文化財団





マレク

マレクは魚を捕るために使われる道具のひとつです。鉄の鉤を土台となる木(台木)にはめ込み、この台木と2~3mの柄を紐で結んでひとつにしたものがマレクです。川べりや浅瀬、舟の上から、マレクを鉤のように使い、魚めがけて一気に突き刺します。突いた反動で鉄鉤が台木から外れ、回転することによって、魚が暴れても逃げられなくなるという仕組みです。魚の捕り方に興味があれば、「プラザ展示」や「私たちのしごと」で展示している漁具や映像をぜひご覧ください。

このユニットではマレクの仕組みを学べます



イケレウシ テンパテンパ

— 探究展示 テンパテンパ —

7

「テンパテンパ」は、アイヌ語で「さわってね」の意味。体験を通じてアイヌ文化にふれることができる、大人も子どもも楽しめるコーナーです。それぞれの体験ユニットをエドゥケーターが紹介します。



サクパイペマパイペ
季節と料理

かつてのアイヌ民族の食卓には、季節の生業に合わせ、旬の食材を使った料理が並びました。食べものが少なくなる時期に備えて食材を保存し、一年を通してバランス良く栄養をとっていました。同じ料理でも、地域によってはその呼び名や食材の組み合わせ、味付けなどが異なることも珍しくありません。一部の料理は現代でも家庭の味や、儀礼のときにいされる特別な料理として受け継がれています。このユニットでは、「あたたかい季節」と「さむい季節」、それぞれの料理を見ることができます。

(エドゥケーター 両角佑子)



ホリデーイベント 展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコロ トウンブをまわろう!」

博物館で行う主なイベントといえば、展示解説ツアーを思い浮かべる人が多いかもしれません。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、この2年間で来館者と対話する活動は減ってしまいました。

当館では、感染症対策に配慮しながら無線ガイド機を使用して、距離を確保できる人数で、30分の基本展示解説ツアーを始め

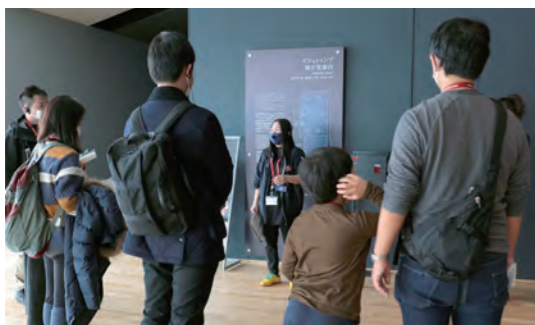
ました。

このイベントでは、研究員、学芸員、エドゥケーターの解説を聞きながら基本展示室をまわり、展示の概要と博物館が伝えたいメッセージ、多様な文化について知ることができます。

アイヌ語の「イコロ トウンブ」はどういう意味でしょうか。基本展示室の各コーナーのタイ

トルは、なぜ「私たちの」という一人称になっているのでしょうか。ツアーに参加することで、これらの疑問や、当館のミッションや展示のコンセプト、またアイヌ民族のこれまでとこれからについて考えるきっかけになるでしょう。展示室と一緒にまわり、アイヌ文化について考えてみませんか。

(エドゥケーター カサド・バルド・ケラール)



当館職員による解説の様子(1)



当館職員による解説の様子(2)

※今後のイベント開催の詳細は博物館のウェブサイトをご覧ください。 <https://nam.go.jp/activity/event/>

博物館Pickup!

国立アイヌ民族博物館の収蔵資料をピックアップして紹介します。

家具製作(現代のしごと)

現代のしごとを紹介するコーナーでは、いわゆる伝統的な生業だけではなく、俳優やフェアトレードといったさまざまなしごとに就いている人々を、しごと道具と本人の語り(映像)をセットにして展示しています。その一つが、「家具製作」です。家具作りを行っている館下直子氏は、1983年、北海道帯広市生まれで(神奈川県相模原市在住)、2002年から帯広高等技術専門学院で木工技術を学び、2014年に、家具職人の夫と共に家具工房nikomをはじめました。木の温もりを感じられる家具、オーダーメイドならではの、使う人の暮らしに寄り添った家具を製作しています。「nikom」とは、「木の芽」を意味するアイヌ語です。彼女たちが届ける家具から新たな葉や花が開き、良い出会いがありますように・・・という思いが込められています。

nikomでは、家具のオーダーを受けると、まず1/5「スケール・モデル」(模型)を作ります。そして、それを見ながらお客さんとじっくり話し合い、お互いのイメージを形にしていきます。それはあたかも、対話の中から「木の芽」を育てていくかのようです。そこには、「木の芽」が末永く育っていくことを願う気持ちが込められています。この模型がしごと道具として展示されています。また、「nikom」というアイヌ語を工房名に使うことについては、小学3年生より帯広のカムイトウボポ保存会

で踊りを習ってきた館下氏が、神奈川に引っ越してきたときに、首都圏ではアイヌ民族を知らない人たちがたくさんいることに気づき、「nikom」という言葉がアイヌのことを知るきっかけの一つになってほしいと望んだことも深く関わっているとのことでした。ここでは、「nikom」というアイヌ語

が彼女の日々の生活の文脈の中におかれることで、新たな意味づけを生じさせているといえるでしょう。アイヌ文化は、決して博物館で展示されているだけのものではなく、今を生きる人々の日常生活の文脈の中で、生き生きと発展しているのです。(研究主査 関口由彦)



ウボポイのアイヌ語表示について紹介します。

見て見て! 館内サイン

カンピソシ ヌカラ トウンブ

ライブラリ

カンピソシ「本」・ヌカラ「～を見る/～を読む」・トウンブ「部屋」という意味で、ライブラリ(図書室)は何をする部屋なのかということに注目して考えられたアイヌ語名です。カンピソシのカンピは「紙」という意味で、日本語からの借用語と考えられています。ソシは「薄いものが重なっている全体・束」という意味で、カンピ「紙」・ソシ「束」で「本」という意味になります。

当館ライブラリは、アイヌの文化・歴史に関する図書を中心に、世界各地の民族や文化に関する図書もあり、専門的な学術書、絵本や写真集、図鑑などがそろっています。どなたでもご利用いただける「開かれた専門図書室」です(室内閲覧のみ可能)。(学芸員 矢崎春菜)



Report 1

当館収蔵資料の 熟覧から見えてくるもの

物質文化グループは、基本展示室の資料入れ替えに係る衣服等の展示計画や民具等に対するレファレンス対応、当館収蔵資料や他館資料の調査研究等を行っています。

当グループが昨年度に行った調査研究は、大きく分けると①アイヌ民具の基礎研究と②アイヌ民具の技術継承に関する基礎研究、③アイヌ研究における物質文化に関する資料調査の3つです。①では衣服や木彫(イクパスイ)、民具素材というモノについて、当館や函館市北方民族資料館、日本民藝館の収蔵資料の調査研究を行いました。②では技術伝承活動史として、北海道アイヌ協会が実施してきた技術伝承に関する事業の調査と、白老で過去に行った複製事業に関する調査を実施しました。③ではマクンベツアイヌ文化伝承保存会が実施しているアットゥシの伝承活動に参加し、その内容や技術、保存会の歴史等について調査を行いました。今年度は①と②を継続して実施しています。

ここでは①の衣服調査についてご紹介します。昨年度はアットゥシについて、写真を基にパソコンを使い原寸図を作成し、それに着物の仕立て方や文様の

縫い付け方、刺繍の技法など詳細に記入して表にまとめました。この中から2点をご紹介します。1つ目は、アットゥシの裾や袖口などの縁布の縫い付けについてです。現在は、写真Aのようにテープ状の木綿で、裏面から樹皮の布端を包むようにして表面で縫い留めるのが多く見られます。この技法は、『アイヌ衣服調査報告書(Ⅰ)-アイヌ女性が伝承する衣文化-』や『アイヌ生活文化再現マニュアル織る-樹皮衣-』でも紹介されています。しかしかつては写真Bのように毛抜き合わせのような技法を用いており、アットゥシの縁布1つを調べても技法は複数あると考えられます。



2つ目は、1枚の着物の刺繍の進行方向についてです。現在の刺繍の方法では、2重にオホ(チェーンステッチのようなもの)で縫うときは、トゲと呼ばれる先端で折り返して縫うため、進行方向が逆になることが多々あります。ですが資料によっては写真Cのようにトゲの何目か手前で進行方向を揃えるものや、写真Dのように刺繍

の途中で進行方向を揃えるものが見られました。また、図1の前身頃では、ピンクで文様が描かれている部分の刺繍が同一方向に縫われていました。このことから作り手ごとにそれぞれ刺繍のルールのようなものがあると考えられます。



技法や作り手たちのルールは1つではなく、地方や個人、講師などによりさまざまな違いがあります。その一つ一つを大切に記録し、伝承活動や来館者の方々に伝えてできればと努力しております。他にも物質文化グループは、イクパスイや染織、複製事業に関することなどの調査研究を行っておりますので、またの機会にご報告できればと思います。

(学芸主査 北嶋イサイカ)

Report 2

歌や踊りを 未来へ伝えていくために

博物館では、資料の管理や保存だけでなく無形文化についての研究も行っています。無形文化とは、例えばアイヌ語や歌・踊り、木彫りや刺繍の作り方、食文化・儀礼に関する知識など、形のない技術・経験・文化的知識や伝承のことを指します。研究プロジェクト「芸能の持続的な継承と発展に関する研究」は、こうした無形文化のうち「芸能(歌・踊り)」に焦点をあてています。博物館の学芸員、国立民族共生公園で芸能を担当する職員、ウポポイ外部の専門家が共同で、芸能を未来に向けて

どうやって継承・発展させていくのか、一緒に考えていくことを目的としています。

ウポポイの中にある国立民族共生公園では、ウエカリ チセ(体験交流ホール)やテエタ カネ アン コタン(伝統的コタン)で、歌や踊り、ムックリなどの伝統芸能が毎日上演されています。プログラムを担当する職員は、各地の伝承者の方に教えていただいたり、古い録音資料・映像資料を参考に昔の歌や踊りを復興したりして、こうした上演に必要な技術や知識を習得しています。

今年度のプロジェクトでは、そうした日々の伝承活動の意義を再確認し、10年・20年後の理想的な制度や環境について考えるため、勉強会を開催することにしました。2021年度は伝統芸能の実演を担う舞踊チームと博物館の学芸員等が参加し、11月から3月までの間に合計5回開催しました。

その内容は、①アイヌの歌や踊りに関するこれまでの記録や研究について、②日本の国立劇場における伝承者育成活動について、③新潟の公立劇場における専属舞踊団について、④世界で初めて設立されたカナダの国立先住民族シアターについて、⑤ミュージシャンOKIさんの米国ツアーの背景について。勉強会の様子は、今後報告書としてまとめられる予定です。

(アソシエイトフェロー 谷地田未緒)



第1回勉強会(講師:北海道博物館 甲地利恵さん)の様子

展示事業報告

News 1



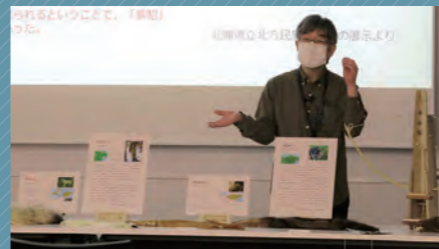
ホリデーイベント
「動物の毛皮に触ってみよう
-アイヌ民族と北方民族の
毛皮利用を知る・触る-」

【開催日】
2022年5月28日(土)・29日(日)
【会場】
交流室

寒いときに身体を守ってくれるもの、その一つが毛皮です。本イベントでは、世界各地で収集された約30種類の毛皮や毛皮製品を1カ所に集め、来場者が研究者と話しながら自由に触れるように展示しました。毛皮のあたたかさや触り心地に加えて、地域ごとの毛皮利用や動物との関係にも関心をもっていただけるよう、解説パネルやエピソードパネルを設置しました。

本イベントに併せて、当館の佐々木史郎館長の講演や、研究者のトークイベントも開催しました。館長の講演では、クロテンの毛皮にまつわる先住民族の交易の歴史や、現代の毛皮獣狩猟の話が伝えられました。また、4人の講師がグリーンランド、シベリア、カナダの毛皮利用と現地の先住民族の関係について話をしました。

2日間で計660名の方にご来場いただきました。多くの方が楽しそうに毛皮を触り、講師やスタッフと言葉を交わしている様子が印象的でした。本イベントが、生活に欠かせない素材として毛皮の文化を培ってきた人びとの歴史と現在を考えるきっかけになれば幸いです。(アソシエイトフェロー 是澤櫻子)



クロテンについて講演をする佐々木館長



イベント講師と企画者、スタッフ

*本イベントは、ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、国立アイヌ民族博物館コラボイベント「毛皮と北方民族の多彩な関係」として開催しました。

News 2



第4回特別展示
「CHIRI MASHIHO 知里真志保
~アイヌ語研究にかけた熱意~」

【会期】
2022年6月25日(土)~8月21日(日)
【会場】
特別展示室

アイヌの言語学者、民族学者である知里真志保(1909年-1961年)の展示会を開催しました。知里は、アイヌ自身の視点でアイヌ文化を研究することが重要であると考え、道内各地での調査を行い、その結果に



6章 AYNU ITAK(アイヌイタク)

ついて多くの著作物や論文を残しました。この展示会は、知里の活動と、彼に関わりのあった人びとの出会いや交流から、その研究をふりかえることをテーマとし、6つの章の展示構成としました。

第1章から第4章は年代ごとの調査の記録や成果と、収集した民具を展示しました。第5章では9人のアイヌ民族からみた知里の印象や、知里に対する想いの紹介として、関連する手紙や書籍を展示しました。また、第6章では知里の研究成果を身近に感じてもらうために、アイヌ語のクイズやゲームの体験、来場記念のフォトスポットとして利用できる、AYNU ITAK(アイヌイタク)を設置しました。

(研究員 赤田昌倫)



2章の展示



展示室全体の様子

ウポポイへの入場は 事前予約制です。

ウポポイへお越しの際は

ウポポイ入場券

博物館入館整理券※

の両方が必要です。

※博物館の展示室観覧を希望されない方は、博物館入館整理券予約は不要です

博物館に入館する場合は、必ず事前予約をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はできませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる人数を制限し、1時間刻みの予約制としています。



STEP 1 ご来場日を決める

STEP 2 ウポポイウェブサイトのご利用案内よりウポポイ入場予約・チケット購入にアクセス

STEP 3 オンラインでウポポイ1日券を日付を指定して購入

STEP 4 博物館入館整理券を日時を予約して入手

区分	料金(税込)	来場時に必要な券
個人	大人 1,200円	ウポポイ1日券 (オンライン購入時に日付指定) ※1
	高校生 600円	
年間パスポート	大人 2,000円	博物館入館整理券 (ウェブサイトによる日時予約が必要) ※3
	高校生 1,000円	
団体 (20名以上) ※2	大人 960円	ウポポイ入場日予約券 ※3
	高校生 480円	
中学生以下	無料	
障がい者およびその介護者1名		

- ※1 ウポポイ1日券はコンビニでもお買い求めいただけます。
- ※2 ご来場になる人数分のウポポイ入場日予約券と博物館入館整理券を入手のうえ、現地窓口にてご精算ください。
- ※3 コンビニでの発行はできません。

ウポポイ入場券購入および博物館入館整理券の発行はこちら



◎休館日

月曜日および年末年始(12月29日～1月3日)
※祝日または休日の場合は翌日以降の平日

ウポポイ こんなとこ6



「食」を通してアイヌ文化を気軽に体験。

ウポポイでは、アイヌの伝統料理や、その調理方法や食材を用いた料理を提供しています。軽食から本格グルメ、オリジナルスイーツもご用意。ゆっくり楽しむお食事や、ちょっとした休憩にご利用いただけるレストランやフードコートをお3回にわたりご紹介いたします。

焚火ダイニング・カフェ ハルランナ

アイヌ文化に源流のある食材を現代の技術を用いて調理した、美味しく、美しく、健康的な創作料理をご提供。鹿肉や北海道ラム、白老牛を満喫できます。スイーツやコーヒーといったカフェタイムの利用もおすすめ。

焚火をコンセプトとし、オープンキッチンには囲炉裏を用意。料理や特製スイーツでは、もっとも原始的な調理方法ともいえる焚火で燻すことで自然火ならではの燻煙効果で繊細ながらも力強い一皿に仕上がっています。



ユク(蝦夷鹿)の焚火ロースト(スープ・メイン・パン) 2,800円



ハルランナサンド(スープ付) 1,320円



ランチメニューにプラスできるデザートカフェセット 550円



ハルランナ特製縄文プリン 550円



場所 ウポポイ無料エリア(入場ゲート手前)

営業時間 11:00～15:00(時短営業中)

電話 0144-84-6545(事前予約可)

座席 30席ほか同店専用テラス席有り

H P <https://haruranna.com/>



メニュー表

最新の営業状況等の詳細はウポポイHPをご覧ください

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

基本展示室では、資料の保護や、最新の研究成果、新規の収蔵資料等を紹介するため、定期的に展示替えを行っています。令和4年度の今後の予定は以下の通りです。

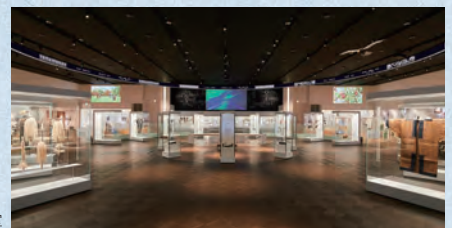
【第3期】8月30日～10月30日

【第4期】11月1日～12月25日

【第5期】12月27日～令和5年3月5日

【第6期】3月7日～5月7日

※画像は基本展示室



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
ウポポイ
民族共生象徴空間

<https://nam.go.jp/>

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第9号
ISSN 2435-8207

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住所 〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

電話 0144-82-3914 FAX: 0144-82-3685

メール info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



編集・発行: 国立アイヌ民族博物館 2022年8月発行

印刷: 凸版印刷株式会社